

図書館からお知らせ

「親子おはなし会～親子で楽しめるおはなしと手遊び～」
「手遊び講座」を開催します！

おはなしせつこさんの「おはなし」や「手遊び」を楽しめる「おはなし会」と、おはなし会で使える「手遊び」を学べる「手遊び講座」を開催します。

中央図書館
0558-76-5566

	おはなし会	手遊び講座
とき	2月24日(土) 13:30～14:10	2月24日(土) 14:20～15:30
ところ	中央図書館	2階視聴覚室
対象	幼児から小学生(低学年)とその保護者 ※ボランティア活動している人の見学自由	読み聞かせ活動者や興味のある人 30人(先着順)
申し込み	不要 当日会場にお越しください	2月2日(金)から中央図書館カウンター または電話で申し込み
講師	おはなしせつこ(久保節子)さん(常葉大学短期大学部非常勤講師)	

図書館だより

今月のおすすめ ～雪に閉ざされて～

推理小説の定番“雪の山荘もの”。
雪により外界との往來を断たれた空間
で起こる事件。あなたの推理は。



『致死量未満の殺人』三沢陽一(著)

雪に閉ざされた山荘で、女子大生、弥生が毒殺された。容疑者は一緒に宿泊していた同じ大学のゼミ仲間4人。15年後の雪降る夜、驚愕の真相が明かされる。【葦山】



『群衆リドル』古野まほろ(著)

浪人中の夕佳のもとに届いた、〈夢路邸〉内覧パーティーの誘い。恋人と共に訪れた雪の洋館には、いわくありげな招待客たちが集まっていた。執拗に構築された不可能犯罪の構図とは。【中央】

■『ジェリーフィッシュは凍らない』市川憂人(著)【中央】

■『白馬山荘殺人事件』東野圭吾(著)【中央】

■『霧越邸殺人事件』綾辻行人(著)【中央・葦山】

■『暴雪圏』佐々木譲(著)【中央・葦山】

■『屍の命題』門前典之(著)【葦山】

■『名探偵はもういない』霧舎巧(著)【中央・葦山】

2月の休館日	中央図書館	葦山図書館
5日(月)、12日(月・振休)、19日(月)、23日(金)、26日(月)	7日(水)、12日(月・振休)、14日(水)、21日(水)、23日(金)、28日(水)	

開館時間(共通) 9:00～17:30 中央図書館 0558-76-5566
図書館ホームページ <http://www.izunokuni.library-town.com/>

さがしている本が市内の図書館にないとき

市立図書館のホームページに、静岡県横断検索システム「おうだんくんサーチ」にリンクするボタンがあります。一定の条件のもとで県立図書館などから本を借り受けて提供できる場合もありますので、ご相談ください。



図書館カレンダー
モバイル版QRコード

2月のおはなし会

※いずれも土曜日

中央図書館

10日 11:00～

葦山図書館

10日、24日 14:00～

あやめ会館

17日 9:00～11:00
※この間、いつでも自由にお越しください。



平成30年度入札参加資格審査

申請書の追加受付について

市役所財務課
055-948-1414

受付期間/2月1日(木)～21日(水)(持参の場合は土・日・祝日を除く) 9:00～11:30、13:00～16:00

受付場所/財務課窓口(伊豆長岡庁舎)

提出書類/提出書類一覧・申請に使用する様式などは、市ホームページからダウンロードしていただくか、財務課窓口で受け取ってください。

提出方法/持参または電子申請
(電子申請は土・日・祝日も申請可能です)

平成30年4月から伊豆の国市が発注する「建設工事」、「測量・建設コンサルタント等」、「物品調達、役務提供等」の入札参加資格審査申請書の追加受付を次のとおり行います。

文化財通信

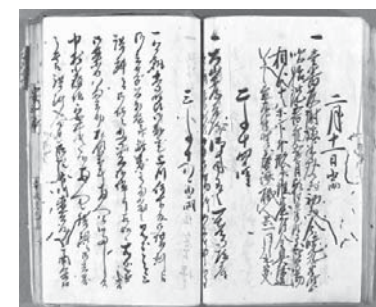
その152

葦山反射炉の築造担当者「八田兵助」(その5) 市役所文化財課

055-948-1428

安政2年(1855)1月16日、葦山反射炉の完成を見ることなく、江川垣庵公はこの世を去りました。反射炉築造を急ぎ進めなくてはならない状況下、プロジェクトリーダーである垣庵公を失ったことは、非常に大きな損失だったに違いありません。江川家の家督と葦山代官の職は息子の英敏が継ぐこととなりましたが、若年でもあり、垣庵公同様の統率力を発揮することは難しかったはずでした。

そうした中、八田兵助ら反射炉築造担当者が英敏を補佐しながら、葦山反射炉の築造を継続していくこととなりました。しかし、やはり垣庵公不在の影響は大きかったようです。安政2年2月11日、一番先に完成した南炉で、初めて銑鉄の溶解が実施され、深夜1時ごろから翌朝10時ごろまでかけて、全ての銑鉄を溶かすことに成功しました。それを受けて、同年3月18日には、江戸の勘定所から勘定(注)川上伝一郎が、葦山へ反射炉の見分に来ていました。しかし、築造工事はそれ以降停滞の局面を迎えます。



「反射炉御取建中日記」
安政2年3月18日条
勘定川上伝一郎の葦山反射炉見分
(公財)江川文庫所蔵

定奉行川路聖謨が、ダイヤ号の代船を建造中だったロシア人に製鉄法について尋ねるため、部下を戸田(現沼津市)に派遣したことも、記録に見えています。

関係者のこうした尽力にも関わらず、葦山反射炉の築造は困難を極めました。銑鉄溶解のための最適な炉内の形状について、解決策を見出すことが難しかったものと考えられます。佐賀藩から、杉谷雍助ら反射炉技術者の葦山への派遣が実現したのは安政4年(1857)2月、彼らの協力を得て葦山反射炉連双2基4炉が完成したのは、同年11月のことでした。八田兵助が反射炉御用掛に任命された嘉永6年(1853)12月から、およそ4年間の歳月を経て、その努力がようやく実を結んだのです。

(注)勘定は江戸幕府の役職のひとつ。勘定奉行配下で、主として江戸の勘定所に勤務していた。